東奥日報
日報　2015年（平成27年）1月10日　土曜日

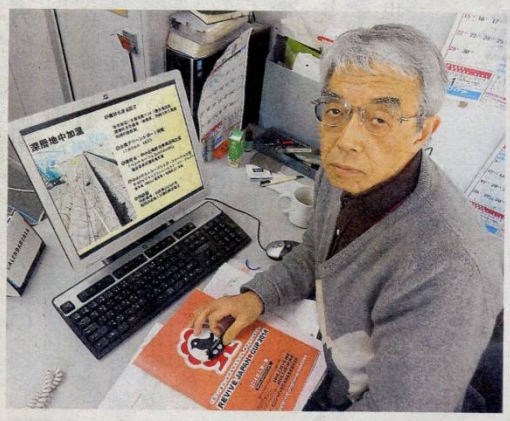
# 被災地農業復興の力に

## 官民連携事業コン　杉浦さん（青森出身）が大賞

## 間伐材ペレットと地中熱の活用提唱

東日本大震災からの復興と新しい東北の創造をテーマにしたコンテスト「リバイブジャパンカップ」のビジネス部門で、青森市出身の杉浦武雄さん(75)が経営する農業設備メーカー「ラジアント」＝東京都品川区＝が大賞に輝いた。間伐材ペレットなど地域産のエネルギーを使い、ハウス内で地中熱を生かした農業を提唱。杉浦さんは「省エネと増収が見込める。寒冷地である東北の活性化に役立つはず」と意気込んでいる。

（高木圭一）




地中熱を生かした農法を提唱し、大賞を受賞した杉浦さん

同コンテストは、復興庁などでつくるエコジャパン官民連携協働推進協議会の主催で、今回が2年目。

ラジアントは山梨県や宮城県などの生産者と提携して「深層地中加温」の有機農法を実践中。ハウス内の土壌に温水パイプを埋設して冬場に加熱・蓄熱。従来の温風による暖房より熱効率が良いという。夏場は太陽熱を併用して土壌を熱消毒でき、薬剤を使わずに連作障害を防げる。収量アップの実例もあるという。

コンテスト事務局は取材に「地中熱の活用などアイデアが優れていることや、国内で実績を残していることが審査員に高く評価された」と述べた。

杉浦さんは元商社マン。若いころは中近東などを飛び回った。48歳で転職し、1993年にラジアントを設立。家庭用の蓄熱式放射冷房、太陽熱土壌消毒システムの2件で特許も取得している。

70歳を超え、ぼちぼち引退しようかと思っていたが2011年の東日本大震災で被災した宮城県のイチゴ農家から「津波で地中熱設備が流されてしまった。何とか立ち直るために力を貸してほしい」と頼まれ、再度奮起した。

杉浦さんは「やり方次第で農業は成長輸出産業となる。被災地だけでなく東北の過疎地域、中山間地域の農業活性化を応援したい」と話している。